

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	札幌市立明園小学校 第5学年 68名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・冬季オリンピックに興味をもつとともに、その歴史や競技に対する理解を深める。 ・冬季オリンピックについて体験的に学ぶことで、冬期間での運動やスポーツに親しむ。 ・1972年の札幌オリンピック開催に伴い、市民が楽しんだことやまちが整備・発展したことを調べ、まとめることで、オリンピック招致の意義に気付く。
5 取組内容	○指導計画【15時間扱い】 ・冬季オリンピックについて興味関心をもつ。(1時間) ・札幌オリンピックについて調べる。(2時間) ・札幌オリンピックミュージアムに行き、札幌オリンピックについて学ぶ。(2時間) ・札幌オリンピックミュージアムで学んだことを新聞形式にまとめる。(5時間) ・まとめた新聞の発表・交流会をする。(2時間) ・屋外で雪やウインタースポーツに親しむ。(3時間) ○取組の様子 体を動かすことが好きで、スポーツをするのも見るのも好きな子ども実態に合わせて、1時間目のオリエンテーションを行った。本単元の取組に対して強い関心をもつとともに、学習したことを『オリンピック新聞』にまとめ、全校児童に伝えるという取組に対して高い意欲をもった。 オリンピックミュージアムに行く前の事前学習として、冬季オリンピック・



	パラリンピックの競技や歴史についてインターネットで調べた。また「オリンピックミュージアムでいちばん学びたいことを決めよう」という課題を各自でもつことで、現地で学ぶ目的意識をもった。 オリンピックミュージアムでは、オリンピックの桧野真奈美氏の講演を聞いた。桧野氏が小・中学生時の努力や挫折、ボブスレーとの出会いなど、子どもの目線に立った話は児童の心を強く掴むのであった（ほとんどの子どもがこの講演をオリンピックミュージアムで最も印象的な出来事として挙げた）。 校外学習後は新聞づくりを行い、学年の子どもに自分たちがこれまで学習を通して伝えたいこと、冬季オリンピック・パラリンピックに対する思いなどについて伝えた。また、廊下に新聞を掲示し、全校の子どもや保護者、教職員にも自分たちの学びの足跡を見せた。	 
6 主な成果	・単元を通して主体的な学習を進めたことで、冬季オリンピック・パラリンピックに対して強い興味・関心をもった。 ・オリンピックミュージアムで『本物』に触れたことで、自分たちの運動技能や体力を向上しようという意欲が高まった。単元の終末に行ったグラウンドでの活動ではこれまで運動に消極的だった子どもも笑顔で取り組む様子が見られた。	
7 実践において工夫した点	本校は札幌オリンピックで使用された美香保体育館や地下鉄など、近隣にオリンピックとのつながりを感じられる施設があるため、実際の施設を想起させるとともに、札幌の発展とオリンピックを関連付けながら学習を進めることができた。	
8 主な課題等	調べたことやオリンピックミュージアムで学んだことを新聞にまとめたのだが、桧野氏の講演が子どもにとってあまりに印象的だったためか、こちらが意図していた以上に多くの子が桧野氏に関する記事を中心に据えた。子どもの書きたい思いを最優先にしたためだが、教師の関わり如何では、現地で学んだ様々な内容がたくさんの子から紹介されたのではないかと考える。	
9 今後の取組について	学習指導要領の実施に併せて、本校では現在年間カリキュラムを再構築している。5年生では来年以降も冬季オリンピック・パラリンピックを総合的な学習の時間に位置付け、意義や歴史、札幌市とオリンピックのつながりについての理解を深めるようにする。	